



アドホック チャットおよび常設チャットの設定

- [グループチャットルームの概要](#) (1 ページ)
- [グループチャットの前提条件](#) (2 ページ)
- [グループチャットと常設チャットのタスクフロー](#) (3 ページ)
- [グループチャットと持続チャットのインタラクションと制限](#) (8 ページ)
- [常設チャットの例 \(HA なし\)](#) (11 ページ)
- [Cisco IM and Presence の常設チャットの境界](#) (12 ページ)

グループチャットルームの概要

グループチャットは、2人以上のユーザ間のインスタントメッセージングセッションです。IM and Presence Service は、アドホック チャット ルームまたは常設チャット ルームいずれかのグループチャットをサポートします。インスタントメッセージングを有効にすると、アドホックチャットルームのサポートはデフォルトで有効になりますが、常設チャットルームをサポートするようにシステムを設定する必要があります。

アドホック チャットルーム

アドホック チャットルームは、1人のユーザがチャットルームに接続されている限り存続するグループチャットセッションです。最後のユーザが会議室を離れると、アドホックチャットルームはシステムから削除されます。インスタントメッセージ会話のレコードは永続的に維持されません。インスタントメッセージングが有効になると、アドホックチャットルームはデフォルトで有効になります。

アドホック チャットルームは、既定ではパブリック ルームですが、プライベートに再構成できます。ただし、ユーザーがパブリックまたはプライベートのアドホックルームに参加する方法は、使用している XMPP クライアントの種類によって異なります。

- Cisco Jabber ユーザは、アドホック チャット ルーム(パブリックまたはプライベート)に参加するために招待される必要があります。

- サードパーティの XMPP クライアントのユーザーは、任意のアドホック チャット ルーム (パブリックまたはプライベート) に参加するように招待したり、ルーム検出サービスを利用して参加するパブリック専用のアドホック ルームを検索したりできます。

常設チャット ルーム

永続的なチャット ルームは、すべてのユーザがルームを離れても存続するグループ チャットセッションです。ユーザは議論を続けるために時間をかけて同じ部屋に戻ることが期待されません。

常設チャットルームは、ユーザが協力し特定のトピックに関する知識を共有したり、そのトピックに関する発言のアーカイブを検索したり (この機能が **IM and Presence Service** で有効になっている場合)、そのトピックのディスカッションにリアルタイムで参加したりできるように作成されました。

常設チャットルーム用にシステムを設定する必要があります。さらに、常設チャットでは、外部データベースを配置する必要があります。

常設チャットルームは、デスクトップクライアントとモバイル Jabber クライアントの両方 (iOS クライアントと Android クライアントの両方を含む) でサポートされています。モバイルクライアントの場合は、最低限 Jabber リリースの 12.1 (0) を実行している必要があります。

グループチャットの前提条件

アドホックチャットの前提条件

アドホックチャットルームを展開している場合は、インスタントメッセージングが有効になっていることを確認してください。詳細については、[インスタントメッセージを有効にする](#)を参照してください。

常設チャットの前提条件

常設チャットルームを展開している場合：

- インスタントメッセージングが有効になっていることを確認してください。詳細については、[インスタントメッセージを有効にする](#)を参照してください。
- 外部データベースを配置する必要があります。データベースの設定とサポート情報については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.html> で *IM and Presence* サービスデータベースセットアップガイドを参照してください。
- 常設チャットに高可用性を導入するかどうかを決定します。この展開タイプは、常設チャットルームに冗長性とフェイルオーバーを追加します。ただし、外部データベースの要件は、高可用性なしで機能を導入する場合とは多少異なります。
- 常設チャットの展開には、少なくとも 15,000 ユーザ OVA を導入することを推奨します。

グループチャットと常設チャットのタスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	グループチャットシステム管理者の設定 (4 ページ)	常設チャットシステムを管理するためのシステム管理者を追加します。
ステップ 2	チャットルーム設定を設定します (4 ページ)	基本チャットルーム設定を設定します。オプションで、常設チャットの有効化。
ステップ 3	Cisco XCP Text Conference Manager を再起動します (5 ページ)	常設チャットを展開している場合、Cisco XCP Text Conference Manager サービスが実行していることを確認します。
ステップ 4	常設チャット用の外部データベースの設定 (6 ページ)	<p>常設チャットでは、各ノードに一意の外部データベース インスタンスを設定する必要があります。</p> <p>(注) 常設チャット用の高可用性を導入する場合は、HA の導入時にデータベースの要件がわずかに異なるため、この章の残りの作業をスキップできます。</p>
ステップ 5	外部データベースの接続の追加 (7 ページ)	IM and Presence サービスで、外部データベースへの接続を設定します。
ステップ 6	ある外部データベースから別のデータベースに常設チャット ルームを移行する	IM and Presence サービスで、既存の外部データベースから、すべての常設チャットルームとグループを、同じデータベースの種類または異なる種類の別のデータベースに移行します。外部データベースの移行を実行する方法の詳細については、Cisco IM and Presence データベースセットアップガイド 12.5(1)SU2 リリースの「常設チャットルームを外部データベース間で移行する」セクションを参照してください。

グループチャットシステム管理者の設定

常設チャットシステムを管理するためのシステム管理者を追加します。

手順

ステップ 1 [メッセージング (Messaging)] > [グループチャットシステムの管理者 (Group Chat System Administrators)] を選択します。

ステップ 2 [グループチャットシステムの管理者を有効にする (Enable Group Chat System Administrators)] のチェックボックスをオンにします。

設定が有効または無効の場合、Cisco XCP ルータを再起動します。システム管理者の設定を有効に設定すると、システム管理者を動的に追加できます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 4 IM アドレスを入力します。

例

IM アドレスは name@domain の形式である必要があります。

ステップ 5 ニックネームおよび説明を入力します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[チャットルーム設定を設定します \(4 ページ\)](#)

チャットルーム設定を設定します

Room Member や Occupancy などの基本的なチャットルーム設定、および 1 部屋あたりの最大ユーザ数を構成します。

オプションで、常設チャットを有効にするチェックボックスをチェックすることで、常設チャットを有効にできます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] から、[メッセージング (Messaging)] > [グループチャットおよび常設チャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。

ステップ 2 システムが自動的にプライマリグループチャットサーバのエイリアスを管理するチェックボックスをチェックする、またはチェックしないことにより、システムでチャットノードエイリアスを管理するかどうかを設定します。

- チェックあり - システムはチャットノードエイリアスを自動的に割り当てます。これはデフォルト値です。
- チェックなし - 管理者は自分のチャットノードエイリアスを割り当てることができます。

ステップ 3 参加者全員が退室した後もチャットルームをそのままにしておきたい場合は、**常設チャットを有効にする**チェックボックスにチェックします。

(注) これはクラスタ全体の設定です。クラスタ内の任意のノードで永続的なチャットが有効になっている場合は、任意のクラスタのクライアントで、そのノード上の **Text Conference** インスタンスおよびそのノードでホストされているチャットルームを検出できます。

リモートクラスタからのユーザは、そのリモートクラスタで常設チャットが有効になっていなくても、ローカルクラスタ上の **Text Conference** インスタンスおよびチャットルームを検出できます。

ステップ 4 常設チャットを有効にすることを選択した場合は、以下のフィールドのそれぞれの値を設定します。

- 許可されるパーシステントチャットルームの最大数 (Maximum number of persistent chat rooms allowed)
- データベース接続数
- データベース接続のハートビート間隔 (秒) (Database connection heartbeat interval (seconds))
- パーシステントチャットルームのタイムアウト値 (分) (Timeout value for persistent chat rooms (minutes))

(注) シスコのサポート担当者に連絡せずに、**データベース接続のハートビート間隔値**をゼロに設定しないでください。ハートビート間隔は、通常、ファイアウォールを介して接続を開いたままにするのに使用されます。

ステップ 5 部屋の設定で、最大部屋数を割り当てます。

ステップ 6 グループチャットと常設チャットの設定ウィンドウの残りの設定を完了します。フィールドとその設定のヘルプについては、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[Cisco XCP Text Conference Manager を再起動します \(5 ページ\)](#)

Cisco XCP Text Conference Manager を再起動します

チャット設定を編集したか、チャットノードに1つ以上のエイリアスを追加した場合は、**Cisco XCP テキスト会議マネージャ**サービスを再起動します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、IM and Presence ノードを選択して、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** [IM and Presence サービス (IM and Presence Services)] セクションで、[Cisco XCP Text Conference Manager] ラジオボタンをクリックし、[起動 (Start)] または [再起動 (Restart)] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** リスタートに時間がかかることを示すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- ステップ 5** (任意) サービスが完全に再起動されたことを確認するには、[更新 (Refresh)] をクリックします。
-

次のタスク

常設チャットの高可用性を展開する場合は、に[常設チャットにおける高可用性のタスクフロー](#)を進みます。

それ以外の場合は、[常設チャット用の外部データベースの設定 \(6 ページ\)](#)に進みます。

常設チャット用の外部データベースの設定



- (注) このトピックでは、高可用性なしの常設チャットについて説明します。常設チャットに高可用性を展開する場合は、外部データベースの設定情報ではなく、該当する章を参照してください。
-

常設チャットルームを設定する場合は、常設チャットルームをホストするノードごとに、個別の外部データベースインスタンスを設定する必要があります。また、次の点に注意してください。

- 永続的なチャットが有効な場合は、外部データベースを Text Conference Manager サービスに関連付ける必要があります。また、データベースがアクティブで到達可能である必要があります。そうでない場合は、Text Conference Manager は起動しません。
- 常設チャットのログ記録に外部データベースを使用する場合は、データベースが大量の情報を処理するのに十分な大きさであることを確認してください。チャットルームのすべてのメッセージをアーカイブすることはオプションですが、ノードのトラフィックが増え、外部データベースのディスク領域が消費されます。
- データベースサイズを監視し、期限切れのレコードを自動的に削除するジョブを設定するには、外部データベースクリーンアップユーティリティを使用します。

- 外部データベースへの接続数を設定する前に、書き込む IM の数およびそのトラフィック総量を考慮します。設定する接続数によって、システムを拡張できます。システムのデフォルト設定はほとんどのインストールに適していますが、特定の展開にパラメータを適応させることもできます。

外部データベースを設定する方法については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.html>で *IM and Presence* サービスの外部データベース設定ガイドを参照してください。

次のタスク

[外部データベースの接続の追加 \(7 ページ\)](#)

外部データベースの接続の追加

IM and Presence サービスから常設チャット外部データベースへの接続を設定します。IM and Presence サービスのクラスタ間全体には、少なくとも1つの一意の論理外部データベースインスタンス（テーブルスペース）が必要です。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence 管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] から、[メッセージ (Messaging)] > [外部サーバ設定 (External Server Setup)] > [外部データベース (External Databases)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [データベース名 (Database Name)] フィールドに、外部データベースインスタンスの名前を入力します。
- ステップ 4** データベースの種類ドロップダウンリストから、展開する外部データベースの種類を選択します。
- ステップ 5** データベースのユーザ名とパスワード情報を入力します。
- ステップ 6** [Hostname] フィールドにホストのデータベースのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** 外部データベース設定ウィンドウの残りの設定を完了します。フィールドとその設定のヘルプについては、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9** この手順を繰り返して、各外部データベースインスタンスへの接続を作成します。

グループチャットと持続チャットのインタラクションと制限

表 1: グループチャットと持続チャットのインタラクションと制限

機能の相互作用	制約事項
ルームへの参加のアーカイブ	ルームの入退室をアーカイブすると、トラフィックが増加し、外部データベースサーバの領域が消費されるため、これを行うかどうかは任意です。
匿名ルームでのチャット	Cisco Jabber 経由でチャットを展開する場合（グループチャットまたは持続チャットのいずれか）は、[グループチャットとパーシステントチャットの設定（Group Chat and Persistent Chat Settings）] ウィンドウで [デフォルトで、ルームは匿名です（Rooms are anonymous by default）] および [ルームのオーナーは、ルームを匿名にするかどうかを変更できます（Room owners can change whether or not rooms are anonymous）] オプションが選択されていないことを確認してください。いずれかのチェックボックスをオンにすると、チャットは失敗します。
データベース接続の問題	Text Conference Manager サービスが起動した後で外部データベースとの接続が失敗した場合、Text Conference Manager サービスはアクティブなままで動作を継続します。ただし、メッセージはデータベースに書き込まれなくなり、接続が回復するまで新しい永続的なルームを作成できません。
OVA の要件	<p>常設チャットまたはクラスタ間ピアリングを展開している場合、これらの機能に展開できる最小 OVA サイズは 5000 ユーザ OVA です。少なくとも 15,000 ユーザの OVA を展開することをお勧めします。ユーザベースの規模によっては、集中型展開では 25,000 ユーザの OVA が必要になる場合があります。OVA オプションとユーザ容量の詳細については、次のサイトを参照してください。</p> <p>(注) すべての IMP ノードに少なくとも 15000 ユーザ OVA を展開することを強く推奨します。</p> <p>https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-cisco-ucm-im-presence.html</p>

機能の相互作用	制約事項
Microsoft SQL Server での常設チャット文字数の制限	<p>メッセージの本文（HTML タグとテキストメッセージを含む）が 4000 文字を超えるチャットメッセージは配信されません。これらのメッセージは拒否され、アーカイブされません。この問題は、Microsoft SQL Server がリリース 11.5 (1) SU3 以降の外部データベースとして使用されている場合に発生します。詳細については、CSCvd89705 を参照してください。</p>
ピアクラスタがサポートされていないリリースを実行している Jabber Mobile 用の常設チャット	<p>Jabber モバイル用の常設チャットは 11.5 (1) SU5 で導入され、11.5 (1) SU の以前のリリースではサポートされません。この機能は 12.0 (1) または 12.0 (1) SU1 でもサポートされていません。</p> <p>このリリースで Jabber モバイル用の常設チャットを展開し、Jabber Mobile 用の常設チャットルームをサポートしないピアクラスタでクラスタ間ピアリングを設定している場合、Jabber モバイルクライアントには次の条件が適用されます。</p> <p>常設チャットルームが 11.5 (1) などのサポートされていないリリースでホストされている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートされているクラスタに所属する Jabber モバイルクライアントは、サポートされていないクラスタでホストされている常設チャットルームに参加できますが、ルームをミュートすることはできません。彼らはグローバルミュートオプションを見るでしょう、しかしそれはうまくいきません。 サポートされていないピアクラスタに所属している Jabber モバイルクライアントは、常設チャットルームに参加できません。 <p>常設チャットルームが、11.5 (1) SU5 などのサポートされているリリースでホストされている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートされているクラスタに所属している Jabber モバイルクライアントの参加者は、モバイル機能に関する常設チャットをすべて使用できます。 サポートされていないピアクラスタの Jabber モバイルクライアントは、常設チャットルームに参加できません。 <p>(注) 常設チャットの検索機能は、Jabber 設定ファイル (<code>jabber-config.xml</code>) が IM 履歴を無効にするように設定されている場合は動作しません。</p>

機能の相互作用	制約事項
外部データベース接続および Cisco XCP Text Conferencing サービス	<p>スプリットブレイン現象が発生すると、サブスクリバまたはパブリッシャがピア Text Conferencing サービスを検出するか、いずれかのノードがダウンした場合、サブスクリバまたはパブリッシャは、通常の状態からバックアップへの移行を試みます。</p> <p>この操作中に、ピア チャット ルームの読み込みで外部データベースへの接続に失敗した場合、Cisco XCP Text Conferencing サービスはシャットダウンします。</p>
高可用性が設定されている場合にサポートされるパーシステントチャットルームの数	<p>IM & P の導入でサポートされるパーシステントチャットルームの最大数は、サブクラスターあたり 5000 です。</p> <p>高可用性を有効にしている場合は、ノードあたり最大 2500 ルームを作成することを推奨します。(ただし、システムは最大で1ノードあたり最大 5000 ルームを作成できます)。高可用性導入環境では、ノードあたり 2500 ルームが設定されている場合、フェールオーバー時には、バックアップノード上にホストされている 5000 ルームより多くのルームが存在することになります。このため、トラフィックの負荷によっては、予期しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。</p> <p>システム上の 5000 ルームの負荷は、ルーム内の参加者の数、ルーム内のメッセージ交換の割合、メッセージのサイズにも依存します。Cisco コラボレーションサイジングツールを使用して、パーシステントチャット導入のための適切な OVA セットアップを確認します。コラボレーションサイジングツールの詳細については、次を参照してください。 https://cucst.cloudapps.cisco.com/landing</p> <p>サブクラスター内の両方のノード間で均等にルームのバランスをとることを推奨します。また、IM&P クラスターに複数のサブクラスターがある場合は、すべてのサブクラスターにわたってルームのロードバランシングを行うことを推奨します。現在の IM & P には、ルームを自動的にロードバランシングするメカニズムがありません。ルームのロードバランシングは、ルームを作成するユーザの責任で行います。ルームの作成時に、ユーザは Jabber 機能を使用して、自動的にランダムノードをルーム作成用を選択していることを確認する必要があります。</p>

機能の相互作用	制約事項
アドホック チャット ルームをプライベートに する	<p>アドホック チャット ルームは既定でパブリックですが、次の構成のメンバーのみに設定できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] から、[メッセージング (Messaging)] > [グループチャットおよび常設チャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。 2. [ルームは既定でメンバー専用にする] チェック ボックスをオンにします。 3. [ルームのオーナーは、ルームをメンバー専用にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are for members only)] チェックボックスをオフにします。 4. [他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレータのみです (Only moderators can invite people to members-only rooms)] チェックボックスをオフにします。 5. [保存 (Save)] をクリックします。 6. Cisco XCP Text Conference サービスを再起動します。

常設チャットの例 (HA なし)

次の2つの例は、常設チャットの高可用性が導入されていない場合のクラスタ間ピアリングとともに常設チャット機能を示しています。

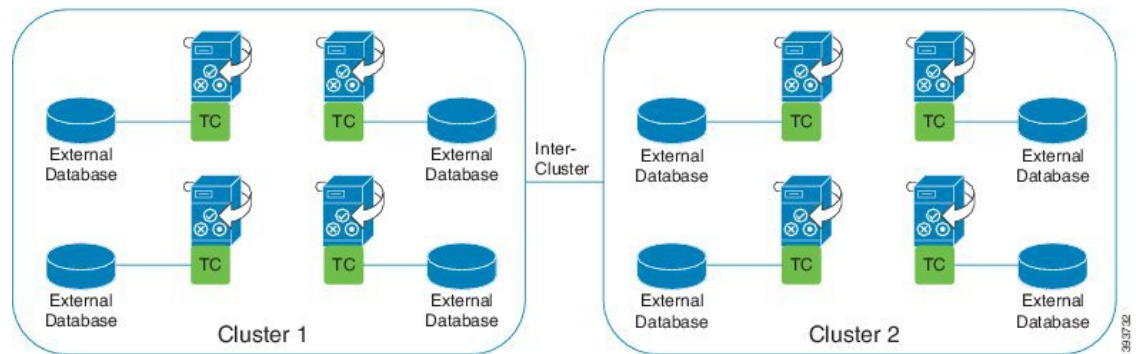


- (注) 常設チャットを展開している場合は、常設チャットルームに冗長性を追加するために、常設チャットの高可用性を表示することをお勧めします。

常設チャット (HA なし) すべてのクラスタ間ノードで有効

常設チャット (HA なし) クラスタ間ネットワーク内のすべてのノードで有効。すべてのノードに常設チャット用の外部データベースが関連付けられているため、すべてのノードで常設チャットルームをホストできます。

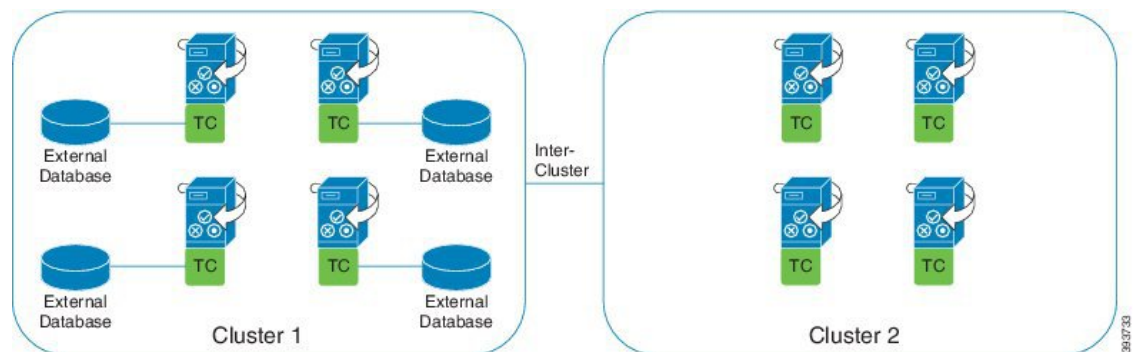
Cisco Text Conferencing サービスは、いずれのクラスタのすべてのノードで実行されているため、いずれかのクラスタのすべてのユーザも、いずれかのクラスタの任意のノードでホストされている常設チャットルームに参加できます。



常設チャット (HA なし) クラスタ間ネットワークの1つのクラスタで有効

常設チャット用に設定されているのは、クラスタ1内のノードのみです。(HA なし) 外部データベースがあります。ノードは常設チャットルームをホストするように構成されていないため、クラスタ2では外部データベースは必要ありません。

ただし、Cisco Text Conference Manager サービスはいずれかのクラスタ内のすべてのノードで実行されているため、どちらかのクラスタ内のすべてのユーザがクラスタ1でホストされている常設チャットルームに参加できます。



Cisco IM and Presence の常設チャットの境界

このセクションでは、IM およびプレゼンスの永続的なチャット (PChat) 境界を表すマトリックスについて説明し、さまざまな依存関係を明確にする例を示します。

永続的なチャット境界を導き出す場合は、次の前提事項が存在します。

1. エイリアス/サーバ/サブクラスター/クラスターごとのルーム数に関しては、次の点に従います。
 1. サーバーには、複数のテキスト会議のエイリアスが含まれている場合があります。
 2. サブクラスターには2つのサーバー(ノード)が含まれます。
 3. 1つのクラスターには、最大3つのサブクラスターを含めてもよい。

2. 高い利用可能性(HA)が有効になっている場合、サポートされているすべての部屋番号が半減します。[常設チャット ルームの最大数]の最大許容値は 2500 です。
3. 例: 1 部屋あたり平均 100 人のユーザを想定すると、IM and Presence サービスは次の機能をサポートできます。
 1. HA を使用しないサーバーあたり 3500 の常設チャット ルーム
 2. HA を備えたサーバーごとに 1750 の常設チャット ルーム。
 3. 1 分間に 1 つのメッセージを 1 回使用すると、サーバーごとに最大 273 の常設チャット ルームをアクティブにできます。

これらの依存関係を明確にする例を次に示します。

タイムスライスごとにサポートされる部屋は、次の式を使用して、サポートされる部屋の合計数を犠牲にして増加できます。

サポートされる新しいルーム数=現在サポートされているルーム数*タイムスライスあたりサポートされている現在のルーム数(%) / タイムスライスごとにサポートされる新しいルーム数(%)

表 2: 25K OVA 常設チャット容量テーブル (サーバー単位)

ルームあたりの平均ユーザ数	サポートされている PChat ルームの数	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度 = 1/分	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度 = 3分
2	5000	100 %	100 %
5	5000	100 %	58%
10	5000	99%	33%
15	5000	69%	23 %
20	5000	53 %	18%
30	5000	36%	12%
50	5000	22%	7%
100	3497	16 %	5%
200	2064	14%	5%
500	926	12%	4 %
1,000	482	12%	4 %



(注) これは、ユーザの30%が2つのデバイス/クライアントを持っていることを前提としています。

25K OVA の例:

ルームあたりの平均ユーザー数 = 10

メッセージ頻度 = 3/分

現在サポートされているルーム数 = 5000

現在のルームはタイム スライスごとにサポート = 33%

新しいルームはタイム スライスごとにサポートされず = 50%

結果 :

新しい部屋サポート = $5000 * 33/50 = 3300$

表 3: 15K OVA 常設チャット容量テーブル (サーバー単位)

ルームあたりの平均 ユーザ数	サポートされている PChat ルームの数	タイムスライスごとに サポートされるルーム メッセージの頻度 = 1/ 分	タイムスライスごとに サポートされるルーム メッセージの頻度 = 3 分
2	5000	100 %	80%
5	5000	100 %	41%
10	5000	67%	22%
15	5000	46 %	15%
20	5000	35%	12%
30	5000	24 %	8 %
50	5000	14%	5%
100	3497	10%	3 %
200	2064	9%	3 %
500	926	8 %	3 %
1,000	482	7 %	2 %



(注) これは、ユーザの30%が2つのデバイス/クライアントを持っていることを前提としています。

15K OVA の例:

ルームあたりの平均ユーザ数 = 5

メッセージ頻度 = 3/分

現在サポートされているルーム数 = 5000

現在のルームはタイム スライスごとにサポート = 41%

新しいルームはタイム スライスごとにサポートされます = 50%

結果 :

新しい部屋サポート = $5000 * 41/50 = 4100$

表 4: 5K OVA 常設チャット容量テーブル (サーバー単位)

ルームあたりの平均ユーザ数	サポートされている PChat ルームの数	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度 = 1/分	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度 = 3分
2	5000	94%	31%
5	5000	53 %	18%
10	4654	33%	11%
15	4261	26 %	9%
20	3929	21 %	7%
30	3399	17%	6 %
50	2677	13 %	4 %
100	1748	10%	3 %
200	1032	9%	3 %
500	463	8 %	3 %
1,000	241	7 %	2 %



(注) これは、ユーザの 30% が 2つのデバイス/クライアントを持っていることを前提としています。

5K OVA の例:

ルームあたりの平均ユーザ数 = 2

メッセージ頻度 = 3/分

現在サポートされているルーム数 = 5000

現在のルームはタイム スライスごとにサポート = 31%

新しいルームはタイム スライスごとにサポートされます = 50%

結果 :

新しい部屋サポート = $5000 * 31/50 = 3100$